

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02437

研究課題名（和文）明治期私立法律学校教育の相似と相違 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析

研究課題名（英文）Similarities and Differences in Private Law School Education in the Meiji Era: A Comparative Analysis of Lecture Transcripts, Lecturers' Histories, and Student Materials

研究代表者

村松 玄太（MURAMATSU, Genta）

明治大学・情報コミュニケーション学部事務室・専任職員

研究者番号：80639568

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本課題における成果は1 私立法律学校の教育実態解明、2 私立法律学校講師の履歴解明、3 私立法律学校生徒の実態解明に区分される。

1は各法律学校刊行講義録の発行実態とその内容分析である（中川と瀬戸口担当）。さらに19世紀から20世紀初頭代言人・弁護士試験の検証を行った（阿部担当）。2は明治中期私立法律学校講師での他校との兼任状況、職業、居住地等の分析である（松原担当）。3は講義録、回想録、下宿名簿、卒業生名簿の比較検証を行った（瀬戸口、古俣、鈴木、村松担当）

一連の明治期における私立法律学校の教育、講師、生徒の動向を明らかにし、もって私立法律学校の役割とその意義について明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

以下の2点で学術的及び社会的意義を有する。1 私立法学系高等教育の総体的解明に貢献（高等教育史研究に資する）これまで個別的解明にとどまっていた複数の私立法律学校の教育内容を比較研究し知見を高等教育史研究の解明に貢献しうる。2 大学アーカイブズ所蔵研究資源の横断的活用（研究資源活用の萌芽的意義）文書・資料保存の重要性に関する認識と大学アーカイブズへの関心は高くなってきている。しかしこれまで大学アーカイブズ機関が連携し、それぞれ所蔵する研究資源を横断的に活用した事例は申請者以外にほぼ見いだせない。本研究は、大学アーカイブズの研究資源を有効に活用する萌芽的な事例としての意義を見出す事が可能である。

研究成果の概要（英文）：The results of this project can be divided into three categories: (1) clarification of the educational status of private law schools, (2) clarification of the history of private law school instructors, and (3) clarification of the status of private law school students. The first is an analysis of the publication status and contents of lecture notes published by law schools (Nakagawa and Setoguchi in charge). The second is an analysis of the status of lecturers at private law schools in the mid-Meiji period, including their dual appointments with other schools, occupations, and places of residence (Matsubara), and the third is a comparative examination of lecture transcripts, memoirs, lodging lists, and alumni lists (Setoguchi, Furumata, Suzuki, and Muramatsu).

The study clarified the education, lecturers, and students of private law schools during the Meiji period, and thus clarified the role of private law schools and their significance.

研究分野：日本近代史・日本近代高等教育史

キーワード：大学アーカイブズ 私立法律学校 代言人試験 弁護士試験 学生街 講義録 講師履歴 神田学生街

### 1. 研究開始当初の背景

従来の研究が、個々の法律学校の特色ある教育内容を強調する一方で、当時の法律学校に共通する教育内容の解明を図ってこなかったことへの疑問が研究者たちにあった。

である。そもそも私立法律学校は、代言人試験（1880～1893年）弁護士試験（1894～1922年）判事検事登用試験（1891～1922年）に代表される法曹資格試験突破を目指す学生のために設置された機関である。実際の教育内容は、試験合格を目的としたものとなり、むしろ法律学校間で相似したカリキュラムが過半を占めていたと考えられる。従来強調されてきた法律学校ごとの教育内容の相違（特色）を明らかにするためには、まずこうした法律学校間で相似する教育内容を明らかにしなければならないはずである。だがこの点の解明はほとんど行われていない。

また他方で、相違（特色）を明らかにする場合の論拠にも課題が残されている。従来の研究では、講師層の履歴、つまり 学歴（司法省法学校、東京大学、私立法律学校）、留学国・継受した法学（フランス法・英米法・ドイツ法）、職業（司法官僚・研究者等）から、当該学校の教育内容を類推してきた（たとえば天野郁夫『大学の誕生』など）。

だが、研究を進めるうちに、様々な来歴の講師がおり、講師履歴のみをもって当該法律学校における教育内容の特色を推し量るのは困難であることがわかってきた。

そこで申請者は、法律学校間の教育内容には相似点が多数あったが、講師たちの継受した法律等により部分的に相違（特色）があったとの仮説を設定した。そして従来、重点的に使用されていた講師履歴ばかりではなく、各種の比較分析することにより、この仮説を解明し、同時に明治期における私立法律学校の役割と意義を明示することが可能になるのではないかと考えるに至った。

### 2. 研究の目的

法律学校の教育内容の特色が強調される従来の個別沿革史研究を覆すべく、法律学校間の教育内容には相似と相違（特色）が存在していたと仮説設定し、その比較解明を目的とする。以下3点に着目する。第1に、法曹資格試験問題と講義内容の対応関係の検証である。第2に、教員履歴と講義内容の連関である。第3に、講義を受講した学生たちの考えである。上記の解明にあたり主として分析の対象となるのは、大きくわけて以下の3種類の資料である。これらの多くは、申請者が所属する大学アーカイブズや、大学図書館等で所蔵している。全国の私立法律学校で多数刊行されていた法学講義録類である。講義録の分析を通して、当該法律学校における教育内容を把握することが可能である。また代言人試験等の法曹資格試験問題と、講義録の内容とを対照することにより、法曹資格試験と法律学校の教育内容との対応関係を知ることも可能となる。

官員録や各種名簿類である。講師履歴を知るために利用する。法律学校学生の日記や書簡等である。講義の受け手であった学生たちが、その教育内容にどのような考えを持っていたかを知ることができる。これらの資料の比較解明を通して、近代法定着期における私立法律学校の役割と意義を段階的に明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究では、法律学校間の教育内容には相似点が多数あったが、継受した法律等により部分的に相違（特色）があったとの仮説を実証的に解明すべく、以下の個別課題を設定し各員の専門領域である、高等教育史及び日本近代史により班別に分析作業にあたった。

<b>課題</b> 法学講義録の発行実態解明	担当：村松玄太〔研究代表者〕・中川壽之・瀬戸口龍一・古俣達郎・阿部裕樹〔以上、研究分担者〕松原太郎〔研究協力者〕	2019-2023
【内容】1880年代から私立法律学校が設立されはじめると、多くの学校で法学講義録が発行されるようになった。だが、学校によっては講義録があまり残存していないこともあり、その発行実態は十分明らかになっていない。講義録は本研究において基礎的な資料となるため、申請者各員が所属する大学アーカイブズ所蔵資料を中心に、次の分担により、講義録の残存状況調査及び発行実態調査を行った。専修大学（瀬戸口）・明治大学（村松・阿部）・法政大学（古俣）・中央大学（中川）・日本大学（松原）。以下の課題においても、概ね申請者の所属機関に応じた分担調査を行う。他機関所蔵資料調査も実施し、全国的な講義録発行実態及びその内容検討をとおして段階的に明らかにした。		
<b>課題</b> 法曹資格試験問題の検討	担当：阿部	2019-2023
【内容】1880-1900年代における代言人試験・弁護士試験問題の検討を通し、その突破を目指すための各法律学校における教育内容へのアプローチを試みた。		

課題	講師履歴の解明	担当：松原	2019-2023
【内容】各法律学校で教鞭をとる教員の各種名簿類等等を活用しながら、法律学校で教鞭を執る講師層の履歴を個々に確認した。			
課題	法律学校学生資料の比較検証	担当：古俣・瀬戸口	2019-2023
【内容】各大学アーカイブズ、あるいは公立図書館等で所蔵する法律学校学生たちの個人資料（書簡・日記等）にみる法律学校の教育内容に関する記述を比較検証する。申請者各員が分担して記述を持ち寄り比較作業を行う。その作業を通して、学生たちが、法律学校の教育内容に対してどのような考えを持っていたのかを段階的に明らかにした。			
課題	明治期における私立法律学校の役割と意義の解明	担当：村松・中川・瀬戸口・古俣・阿部・松原	2023
【内容】上記～の個別課題の解明を通して、私立法律学校の相似と相違（特色）とを明示し、もって、私立法律学校が果たした役割と意義とを総合的に明らかにする。報告書の刊行により、研究成果を公開した。			

#### 4. 研究成果

本課題における各種調査等の研究成果は、報告書にまとめた。研究会各員にて分担を行い、論文執筆や資料紹介にあたった。報告書（『明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析』）の内容は以下のとおりである。

内容は大きくわけて

私立法律学校の教育実態解明  
 私立法律学校講師の履歴解明  
 私立法律学校生徒の実態解明

に区分されるものである。

は具体的には、各法律学校で刊行されていた講義録の発行実態とその内容を主題とする検証が掲げられ、中川と瀬戸口がそれを担当した。講義録の発行実態は十分明らかになっておらず、講義録は本研究において基礎的な資料となるため、申請者各員が所属する大学アーカイブズ所蔵資料を寄せ合い研究に供した。また、地域に残された各法律学校講義録及び英吉利法律学校の講義録の分析を行った。また、法律学校生徒がその目指した法曹資格を得るための代言人・弁護士試験について、阿部が検証を行った。私立法律学校の法学教育は法曹資格試験突破を目的としていることから、法学教育を逆照射するために法曹試験に着目し、1880年から1924年にかけての試験問題の変遷を分析したものである。

は明治中期の私立法律学校講師履歴について松原（研究協力者）が分析した。とくに私立法律学校講師での他校との兼任状況、職業、居住地等、多様な観点からそれを明らかにしたものである。

をめぐっては、私立法律学校生徒にかかわる資料の比較検証から、当時の生徒の動態を明らかにすることを期したものであり、瀬戸口、古俣、鈴木、村松が担当した。具体的には 東京遊学者が帰郷後に残した講義録の分析、私立法律学校に通った者が後年残した回想録の類型化、明治期の学生向け下宿名簿を利用した実態分析、各私立法律学校の卒業生名簿を利用した複数校卒業生の抽出分析である。

これらの分析をとおして、明治期における私立法律学校の教育、講師、生徒の動向を明らかにし、もって私立法律学校の役割とその意義について明らかにできた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 中川壽之	4. 巻 1
2. 論文標題 英吉利法律学校発行『英吉利法律講義録』について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村松玄太	4. 巻 1
2. 論文標題 明治10年代から30年代初頭における私立法律学校のダイナミクス小考 私立法律学校間の生徒流動をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木直樹	4. 巻 1
2. 論文標題 明治期における学生下宿屋の実態について 明治20年代の神田学生街を事例として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 133-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原太郎	4. 巻 18
2. 論文標題 日本法律学校と創立者 - 雑誌『法政文』から見えてくるもの-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学史論輯 覺誌	6. 最初と最後の頁 166-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松原太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 明治中期の私立法律学校講師について－兼任状況・職業・居住地－	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 161-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 104
2. 論文標題 今村力三郎と田中正造	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鳳翼	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 177
2. 論文標題 創業者たちがつくった慶応義塾夜間法律科	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 育友	6. 最初と最後の頁 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 1
2. 論文標題 講義録データ (専修・法政・明治・中央・日本)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 259-380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 1
2. 論文標題 地域に残された講義録に関する一考察 - 八戸市立図書館所蔵本を素材として -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 98
2. 論文標題 目で見る明治大学の歩みVol.91 歴代の広報紙	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治	6. 最初と最後の頁 66-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 30
2. 論文標題 明治大学専門部女子部・法学部出身女子学生が挑戦した高等文官試験について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 109 - 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古俣達郎	4. 巻 30
2. 論文標題 横浜法律学校補遺	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 175-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古俣達郎	4. 巻 1
2. 論文標題 【資料集】明治期私立法律学校の学生生活 - 回顧・回想類からみる -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 161-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 98
2. 論文標題 目で見る明治大学の歩みVol.91 歴代の広報紙	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治	6. 最初と最後の頁 66-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 16
2. 論文標題 【研究ノート】明治期における経済学・商業学系講義録について - 専修学校との比較検討のために -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 専修大学史紀要	6. 最初と最後の頁 48-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 177
2. 論文標題 創立者たちがつくれた慶応義塾夜間法律科	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 育有	6. 最初と最後の頁 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 104
2. 論文標題 今村力三郎と田中正造	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鳳翼	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 明治中期の私立法律学校講師について－兼任状況・職業・居住地－	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 161-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木直樹	4. 巻 1
2. 論文標題 明治期における学生下宿屋の実態について 明治20年代の神田学生街を事例として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 133-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村松玄太	4. 巻 1
2. 論文標題 明治10年代から30年代初頭における私立法律学校のダイナミクス小考 私立法律学校間の生徒流動をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 15
2. 論文標題 阪谷芳郎が講師を務めた大日本実業学会について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 専修大学史紀要	6. 最初と最後の頁 82-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 5
2. 論文標題 「大学昇格への道のり」総合解説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 専修大学史資料集	6. 最初と最後の頁 421-445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 29
2. 論文標題 渋沢栄一と明治大学とのかかわり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 194-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 18
2. 論文標題 加藤一雄資料から見た草創期短期大学の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 覺誌	6. 最初と最後の頁 39-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 14
2. 論文標題 商業教育に携わった私立法律学校の講師たち 私立東京商業学校を素材として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 専修大学史紀要	6. 最初と最後の頁 65-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 90
2. 論文標題 目で見ると明治大学の歩みVol.83 神田発！法律知識の全国普及 地方で活躍した校友たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治	6. 最初と最後の頁 82-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部裕樹	4. 巻 27
2. 論文標題 草創期の明治法律学校と利光鶴松	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 133-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古俣達郎	4. 巻 27
2. 論文標題 【書評】村上一博著『権利自由の揺籃 明治法律学校の建学の精神』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 166-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 227
2. 論文標題 文献紹介地方紙研究協議会編『学校資料の未来 地域資料としての保存と活用』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人民の歴史学	6. 最初と最後の頁 39-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原太郎	4. 巻 16
2. 論文標題 山田顕義と前原一誠(二) 松陰神社所蔵前原家寄贈資料より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 覺誌	6. 最初と最後の頁 127-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸口龍一	4. 巻 12
2. 論文標題 五大法律学校における法学教育の比較・検討～江木衷の「刑法論」を題材に～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専修大学史紀要	6. 最初と最後の頁 33-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 法律学校研究会(編者)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 法律学校研究会	5. 総ページ数 382
3. 書名 明治期私立法律学校教育の相似と相違 - 講義録・講師履歴・学生資料の比較分析	

1. 著者名 松原太郎ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本大学企画広報部広報課	5. 総ページ数 108
3. 書名 日本大学人物略伝 日本大学をつくった先人たち (松原担当同書内「山田顕義」「戸水寛人」「松波仁一郎」「會田範治」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>草創期明治法律学校における代言人試験合格者たち(阿部裕樹)  <a href="https://www.meiji.ac.jp/history/meidai_sanmyaku/thema/article/6t5h7p00003cyyww.html">https://www.meiji.ac.jp/history/meidai_sanmyaku/thema/article/6t5h7p00003cyyww.html</a>  草創期明治法律学校における代言人試験合格者たち(阿部裕樹)  <a href="https://www.meiji.ac.jp/history/meidai_sanmyaku/thema/article/6t5h7p00003cyyww.html">https://www.meiji.ac.jp/history/meidai_sanmyaku/thema/article/6t5h7p00003cyyww.html</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中川 壽之 (NAKAGAWA Toshiyuki) (40643945)	中央大学・その他部局等・その他  (32641)	2021年度にて研究分担者廃止。2022年度から研究協力者(所属は中央大学法学部に変更)。
研究分担者	瀬戸口 龍一 (SETOGUCHI Ryuichi) (30645916)	専修大学・その他部局等・室長  (32634)	
研究分担者	阿部 裕樹 (ABE Yuki) (40625266)	明治大学・学術・社会連携部博物館事務室・専任職員  (32682)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	古俣 達郎  (KOMATA Tatsurou)  (70832476)	明治大学・学術・社会連携部博物館事務室・特別嘱託職員    (32675)	2022年度まで法政大学HOSEIミュージアム准教授。

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松原 太郎  (MATSUBARA Taro)	日本大学・広報部広報課（大学史）・常勤嘱託	
研究協力者	北口 由望  (KITAGUCHI Yumi)  (30398721)	法政大学・HOSEIミュージアム・准教授	
研究協力者	岩立 将史  (IWATATE Masashi)  (40996279)	中央大学・広報室大学史資料課・嘱託職員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関